

# 政策で論戦をリード

参院選後初の県都の市議選となった青森市議選が10月30日に投票され、日本共産党は得票率15・36%を獲得し、現職4人、新人2人の6人（前回と同数）全員を当選させ、改選時の5から6議席へ前進しました。（青森県・赤平加奈恵）

## 青森市議選 6人全員当選

小野寺晃彦市長や公明党が反共攻撃を繰り返す中、党と後援会が「担い手」を広げ、草の根で攻撃をはね返した選挙でした。当選した9人の女性議員のうち、4人は日本共産党。自民党は議席増を狙いましたが、現職が2人落選しました。

告示を目前にした10月11日、小野寺市長は定例の記者会見で、市内の小

## 実績語り攻撃はね返す



当選を支持者と喜び合う（前列左から）天内慎也、赤平勇人、山田千里、相馬純子、万徳菜穂子、村川みどりの6氏＝10月31日、青森市

告示後、小野寺市長は入りました。公明党は、公明党の全候補の応援に 共産党市議団が議会の

内外で4年間求め続けて実現した小中学校の給食費無償化を「公明党と市長の共同プロジェクト」と、事実をねじ曲げて宣伝。他会派の候補もそれに続くなど、来春の統一地方選を見据えて、なりふり構わなかったか

力が発電中止など、党市議団の実績に裏打ちされた、市民の願いを真っすぐ届ける政策で論戦をリード。他会派の候補も、これまで共産党が訴えてきた「高校卒業までの医療費無料化」を選挙公報に載せました。

### 市民が「担い手」

市民からは「頑張ってきたのは共産党だと知っています」の声や、選挙事務所に配達にきた業者の女性から「給食無料化は本当にうれしい。応援します」という激励があります」という激励があります。支持者が職場で「給食無償化を実現したのは共産党なんだよ」と広げると、市民が「担い手」となって共に攻撃を打ち返しました。

選挙期間中の臨時国会で次々と明らかになる統一協会との癒着や、年金削減、75歳以上の医療費2倍化など、市民の暮らしをないがしろにする自公政治への怒りも広がりました。岸田政権に対して他党が何も触れない中で、「岸田政権ノ一の審判を下そう」という党の訴えが市民の願いと響き合いました。

好評だった「子育て支援3つのゼロ」や、除排雪対策、八甲田の巨大風

党東青地区では、「この6議席の力で、市民に冷たい市政をただし、統一地方選勝利へ力を合わせよう」と決意を固めています。